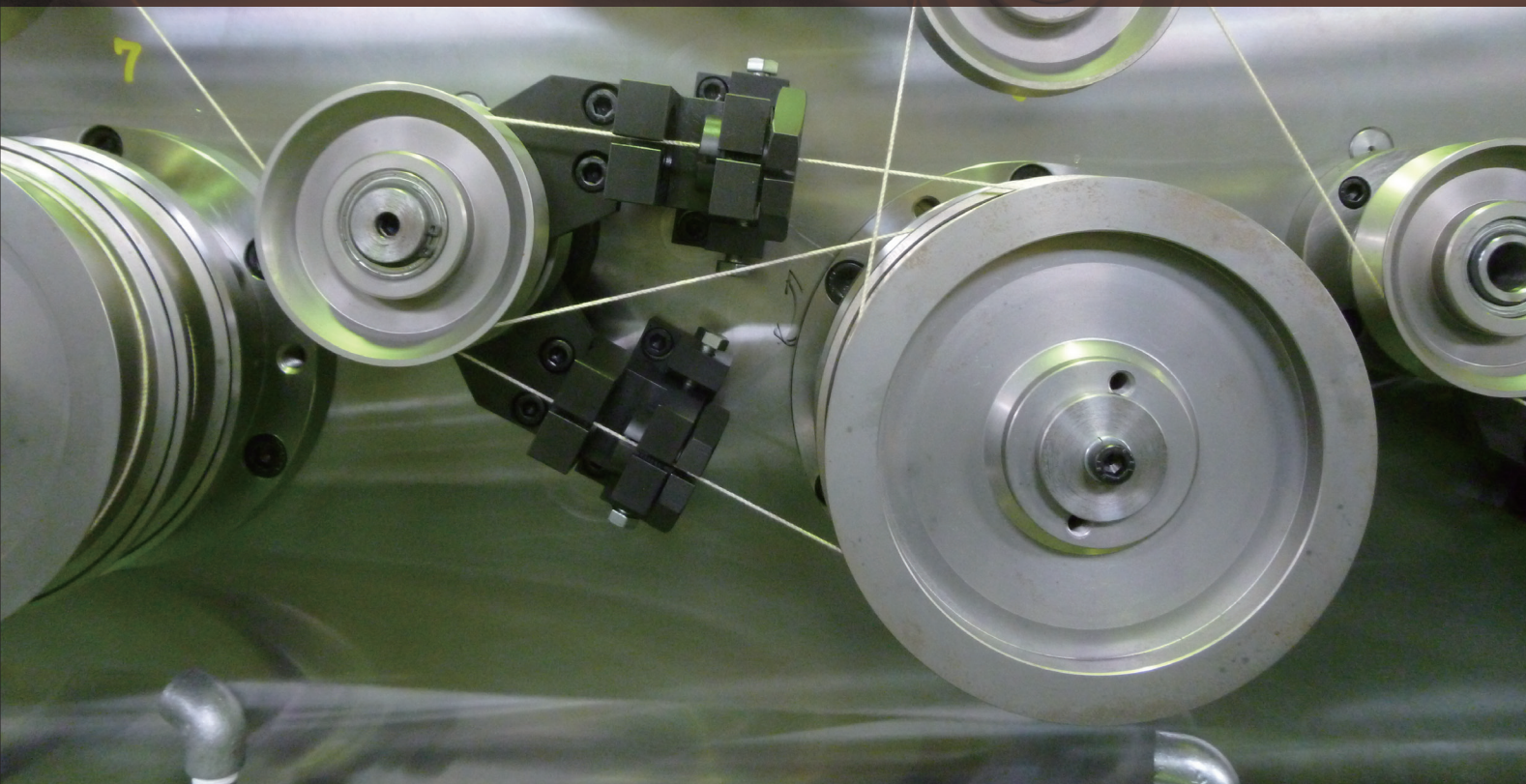


酒井伸線 株式会社

〈事業計画名〉極細線再伸線加工用母材の大型化による大幅な生産性の改善



再伸線用母材の大型化がもたらす 大幅な生産性と品質両面の向上

事業の背景

求められるグローバルな価格対応と高品質、高付加価値

近年日本国内企業の製造現場は、市場のグローバル化に伴い製品の需要が高く、労働賃金が安い海外への工場移転の傾向が顕著となっていた。また、海外から安価な製造製品が流入してくる現状もあり、日本国内の製造現場からは高品質・高付加価値に加え、価格に対してはグローバルな対応を求められるようになっていた。

このような市場のニーズに対して、現有設備の生産能力では限界があり、顧客からの要望に応えることができない状況となっていた。そのため、ボトルネックとなっていた加工工程における作業者の溶接にかかる時間、並びに伸線加工時の設備停止時間の削減を目指し、極細線再伸線加工用母材の大型化設備の導入に取り組むことになった。

■伸線加工

伸線（金属線を細く引き伸ばす作業）と熱処理（引き伸ばして硬くなった金属線を熱処理して軟らかくする作業）の繰り返しで行われる金属線を細く伸ばす加工



事業の成果

大幅な生産性と品質両面の向上による競争力強化

極細線再伸線加工用母材の大型化設備の導入により、大幅な生産性と品質両面の向上が可能となった。作業工程でおよそ8倍の大きさの製品を巻き取ることができるようになったため、作業者が溶接に費やしていた時間が短縮。

また、溶接不良で発生していた断線が無くなり、製品ロスの減少により製品品質とともに歩留まり率も向上。

さらに生産性が上がることで、価格面においても利益を損なうことなく競合他社との競争力強化へとつながった。



■再伸線用母材

伸線加工された金属線を更に細く引き伸ばす際に元となる加工用母材（ポビンに巻き取られた伸線加工された金属線）



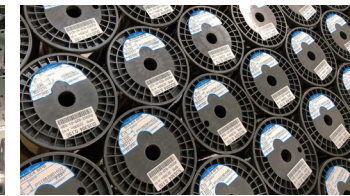
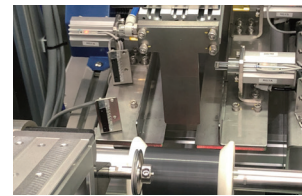
酒井伸線株式会社の概要

創業1950年 社会に貢献し、100年企業を目指す

当社は1950年創業の金属材料伸線加工メーカーで、細線から極細線の製造・販売、熱処理を含む金属線の冷間引き抜き伸線加工を行っている。

ステンレス鋼線を中心に各種合金線、純ニッケル線、純チタン線、ニッケルクロム電熱線、鉄クロム電熱線、Ni-Ti（ニッケル・チタン）合金線、形状記憶合金線など年間約1,000トン強製造している。

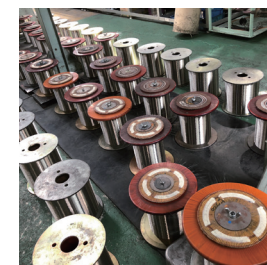
一般産業用・工業設備用・自動車・オートバイ・自転車・医療・電線・化学・製紙・原子力・宇宙・航空・農林水産・レジャーなど、様々な用途で国内外を問わず、多くの顧客より支持を得ている。



イメージキャラクター「ポビンくん」

酒井伸線株式会社のこだわり

顧客満足度向上を目指し「小ロット」「多品種」「短納期」「価格」を実現する。ヒト・モノ・仕組み



当社は創業以来70年以上に渡り蓄積されたノウハウと最新鋭設備機器の積極的な導入により、産業のトレンドや市場ニーズに対応できる仕組みを構築。常にメイド・イン・ジャパンの「高い品質」を提供している。

さらに顧客のターゲットプライスに合わせた「品質管理」を行うとともに、「小ロット」「多品種」「短納期」対応を実現している。

また、ITを活用した「高いトレーサビリティ機能」「受注情報管理」「製造条件管理」「生産工程管理」にも取り組んでおり、顧客満足度の更なる向上を目指している。



酒井伸線株式会社の企業方針

今持てる全ての資産・人材・知識・技術などを駆使し明るい安定した未来をつくる

「明るい安定した未来」をつくるためには、会社として売上を確保するとともに、利益体質を構築し、社員へ還元することが必要だと考えている。

また、普段から収益が上がるよう「シンプル」「スリム」「スピーディー」を意識した現場管理・設備投資・人材教育などの仕組みを構築するとともに、個人と組織が共に進歩し成長することで「幸せ」を実現し共感できる企業体を目指している。



酒井伸線 株式会社

業種分類 金属製品製造業

事業内容 熱処理を含む金属線の伸線加工・細線から極細線の製造・販売

代表者名 代表取締役 酒井 久明

所在地 奈良県大和郡山市今国府町 97-3

連絡先 TEL:0743-56-8888/FAX:0743-56-6077

ホームページ <https://www.sakaiwire.co.jp/>

E-MAIL hisaaki@sakaiwire.co.jp